



環境塾アップデート (PDCAメソッドの実践)

グループ名：環境教育

メンバー：川勝康弘、後藤夏樹、林典子、東昌克

チューター：今中政輝、小宅由似、羽田裕

現状の把握



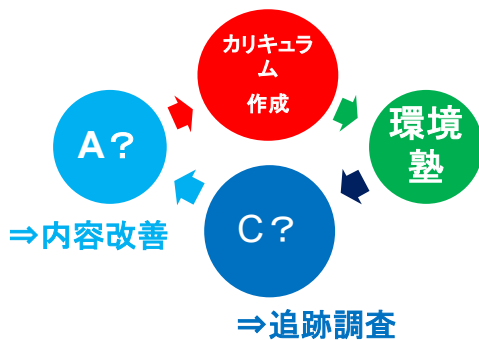
環境塾の卒塾生に対する効果測定やその後の活動に対する追跡調査が不十分
⇒環境塾の改善が進んでいない。

果たして持続可能な人材を育成できているか？

提案の内容

PDCAメソッドを実践し

リーダー+環境学習指導者の役割を持った卒塾生の輩出する環境塾へグレードアップ



PDCAを機能させ環境塾をより良いものへ。

※この重要性は論文でも指摘されている。
「愛知県社会人向け環境リーダー育成事業あいち環境塾の評価と課題」九里徳泰, 田開寛太郎, 後藤尚弘, 小林敬幸, 加藤丈佳, 環境共生学会誌, 24, 32-42, 2014

提案実現のための具体的な取組 (アクションプラン) と実現可能性

Check !

環境塾の調査

- ・アンケート分析
- ・卒塾生追跡調査

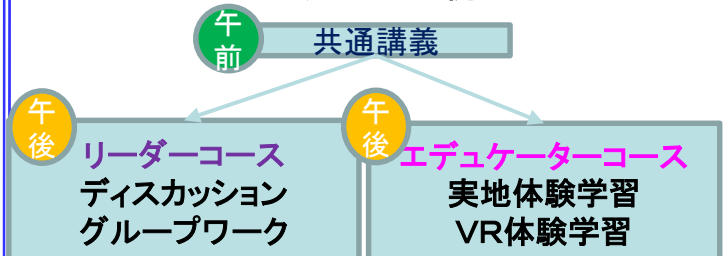
取り巻く社会の調査

- ・環境人材のニーズの変化
- ・環境課題の変化

社会が求める人材に対応した
新たなコースを増やす

Action !

例:エドゥケーターコースの設定
スケジュール例



講師とディスカッション/
ファシリテーション形式
で愛知県提言議論

インド大気汚染問題をVR
で体感/川へ水質調査/
小学校へ環境教育実習

20年後に向けての提言の概要

環境塾のアップデート

2019年
PDCAメソッド
スタート

2040年
PDCA
サイクル確立



2030年
10年間軌道
確認

卒塾生が
次世代に環境
活動の輪を広
げる社会へ!

波及効果

環境塾の社会貢献度向上

- ★卒塾生の社会へのマッチング率向上
活躍の機会が増える。
- ★PDCAメソッドを他の環境教育機関へ適用
⇒参加希望者の増加、
協賛企業の増加などの効果も見込める。